

## あ　と　が　き

紀要委員長　西　田　正　男

本年度は美術関係などカラー写真にする計画で原版を頂きましたが、予算の関係でできなかったことを残念に思います。

田所先生には記念号のことを申し上げてなかったのです。而し最後の論文として原稿を頂戴しました。永年の生化学研究を自然食に応用されて健康保持の生活を続けて居られる先生には、函南の住いを実験室に改造され最近まで若い学生の指導にあられました。

90才の今日まで研究を趣味のようにやられてこられたことは、多い化学者の中でも珍しく、毎日のように書かれた原稿は、必ず印刷され論文となっていることは驚くばかりです。

束縛されないこと、済んだことは考えない、ただ前進あるのみ、これらも先生の永寿につながることはないかと思っております。

バラック建でもよいからと云われた増築校舎も暮には立派にできあがり、本年度は最高の学生数となる模様です。

紀要は学園歴史の一部だと田所先生は云っておられましたが、いつまでも学園の発展を函南荘で見守って下さい。

永い間学園の発展に尽されて御苦労さまでした。